

絲綢之路

シルクロード

S I L K R O A D

2026-新春

No.110

●表紙の画および題字は、
故・平山郁夫画伯のご厚意により
ご提供いただいているものです。



西域の馬 1978年



【葡萄唐草模様について】

古代、ペルシャ、コーカサス生まれの葡萄が蔓草と一つになり、西へ、東へ、シルクロードを経て東西の文化を彩る文様となりました。私どもの財団ではシルクロードを中心に、世界の文化に寄与できればと、この葡萄唐草文様をシンボルマークにいたしました。

●シンボルマークデザイン：吉田左源二

紀伊山地の霊場と参詣道

(高野山 壇上伽藍・根本大塔)



ユネスコ世界遺産シリーズ

撮影・仙波志郎

二〇〇四年に「紀伊山地の霊場と参詣道」として登録されたこの世界遺産は、高野山、吉野・大峰、熊野三山の三大霊場から成っている。その占めるエリアは日本の世界遺産の中では最大である。

高野山は弘法大師・空海（七七四―八三五）によって開かれた真言密教の修行の地。

弘仁七年（八一六）嵯峨天皇から高野山を賜った空海が開創した際に密教思想に基づいた堂宇の建立をめざしたが、壇上伽藍である。名のいわれは、周辺の地より一段高いため、こよばれている。ここは空海の御廟のある奥之院と並ぶ高野山における聖地なのである。

真言宗総本山金剛峯寺をはじめ多くの堂宇の中にあってひととき目立つシンボリックな存在が根本大塔であろうか。高野山開創当初から着工され、八八七年に日本における最初の多宝塔として完成されたと伝えられているが、その後、何度か火災のため焼失。現在の塔は昭和十二年（一九三三）に空海入定一〇〇年を記念して再建されたものである。

高野山においては、空海は六十二歳の時、座禅を組み、手には大日如来の印を組んだまま永遠の悟りの世界に入り、今も奥之院で生きておられるという入定信仰が残っている。ここは全てにおいて異次元の世界と見えようか。

年頭のご挨拶

明けましておめでとうございます。令和八年（二〇二六年）は六十年ぶりの丙午（ひのえうま）の年回りです。井原西鶴の「好色五人女」に登場し、歌舞伎や浄瑠璃でも題材となった「八百屋お七」が寛文六年（一六六六年）の丙午の生まれとされ、恋人に会いたい一心で家に放火し、その咎により火あぶりの刑に処されたことから、丙午の年には気性の激しい女性が生まれるという迷信が流布し、六十年前の昭和四十一年（一九六六年）には前年より約五十万人も出生数が激減するという現象が起こったそうです。少子化で、昨年七十万人を切ったとされる出生数に、さらなる影響が及ばないことを祈るばかりです。女性の社会進出が目覚ましく、我が国の憲政史上初の女性総理誕生という現代社会にあつては男女を問わず、心身ともに強く、逞しく、そして優しさを兼ね備えた子どもたちの誕生と成長を望みたいものです。

ところで、その高市首相の台湾有事をめぐる国会答弁に対し、中国側は強い反発を示し、中国人民の日本渡航自粛勧告や、日本産海産物の輸入停止、日本のミュージシャンの公演や映画の上映中止が相次ぐなど緊張状態が続いています。現在は、比較的良好な関係の日本と韓国の間にも、これまで領土問題や従軍慰安婦の問題など、隣国同士は、経済や外交面では、とかく摩擦が生じるのは、世界中何処においても起こりうるデリケートな問題です。しかしロシア、ウクライナ戦争やイスラエルとハマスの戦闘で、多くの尊い命が失われるような事態になるこ

人間愛に満ちた世界の新たな調和の創成を願う

とだけは絶対に避けなければなりません。

昨年十月二十二日～二十五日には、第18回となる日中韓文化交流フォーラムが、私の故郷でもある和歌山市で行われ、今回は「映像（アニメーション）による文化交流」というテーマで、充実したシンポジウムと極めて和やかな交流が実現しました（詳細は本誌12ページの小宮専務理事によるレポートをご覧ください）。この日中韓文化交流フォーラムは二〇〇六年に第一回が開催されて以来、当財団が日本側代表団を務め、三年間のコロナ禍による中断を除けば、日中あるいは日韓の外交関係が必ずしも良好ではない年にも一度も中断することなく続けられ、隣国同士の文化芸術を通じての相互理解と敬愛の心をもつて、東アジアの平和と安定のために貢献していることを実感しております。一日も早く、日中間の外交関係が正常化されることを願っております。

閑話休題、生成AIやその代表格とされるChatGPTという言葉が耳にからそれほどの時が経過したわけではありませんが、生成AIは、これまで人間にしか成し得ないと思われてきた「0から1を作り出す」創造の世界、そして芸術の分野でも無視できない存在となってきました。ほとんど専門的知識や技術を持たない人が生成AIの力を借りてそれなりの楽曲や美術作品をたちどころに作ってしまう……。そんなことが現実起こっています。教育や研究の現場でも、論文やレポートの執筆に、生成AIの力をどこまで使用可能とす



財団理事長
澤和樹
(さわ・かずき)

るのか、といった新たな問題が生まれてきています。またそもそもAIが検索する膨大な情報には、誤情報やフェイク情報も少なからず含まれており、信頼に値するものであるのかどうか。さらには、無意識のうちに他人の知的財産権を侵害して訴訟に発展したり、多額の損害賠償を請求されたりというケースも起こっているようです。ある国際的な機関の情報によると今後五年間でAIによって世界で一四〇〇万人が雇用を失うという予測があるそうです。人類の叡智が生み出した文明の利器が、かえって人類の滅亡につながるようなことになってはいけません。核兵器についても然りです。核開発や、AIの開発によって、ますます求められるのは人への思いやり、優しさ、人情といった感覚で、それを育むために音楽や芸術文化の果たさねばならない役割はますます大きくなると感じています。

私事ですが、本年四月に福岡県で初となる四年制音楽大学、福岡国際音楽大学の学長に就任いたしますが、これまでの音楽大学に求められた、世界に通用する優れた演奏家、作曲家、教育者の輩出はもとより、音楽の力で、医療や福祉にも貢献できる音楽療法士などの人材、また多様化する音楽産業にAIやICTの知識と音楽で培った感性を融合して、広く社会に貢献できる人材を育成してゆきたいと思っております。

本年が世界の新たな調和へのきっかけとなるような年となることを願ってやみません。

昭和百年を迎え、文化財保護の意義を考える

文化財は各時代を象徴する記念碑と言える。これを守り、次の世に伝えていく意義を私たちは今、あらためて考えたい……。

文化財がもつ求心力

今年、昭和元年から数えて満百年を迎える「昭和百年」という節目の年である。これを契機に、昭和世代の人々だけでなく、平成生まれも含めた多くの人々が

過去を回顧し、それぞれに将来像を描こうとされているのではないかと思う。私は昭和の内（う）午（うま）年生まれ、今年、年男（としおとこ）であることもあって、過去を振り返って感慨無量なこの頃である。

さて、文化財保護行政に身を置いてきた者の一人として、近頃ひしひしと感じていることがある。それは、



震災被害を受けた熊本城跡。平成28年（2016）撮影



焼失以前の首里城復元正殿。平成19年（2007）撮影

今日ほど、文化財が社会の様々な人々から注視されている時代はないという思いである。毎年度の「骨太の方針」（「経済財政運営と改革の基本方針」）をはじめ政府の各種方針に、地方創生・観光立国・国土強靱化など、政府全体の重要政策課題へ対応するための重点施策として、文化財の保存・活用がしっかりと位置づけられていることから、そのように言えると思う。

では、なぜ、文化財に熱い視線が向けられてくるのであるのか。それは文化財のもつ魅力が人々を引きつけるからである。近年では、文化財を核にした取組を進め、それにより生まれる社会的・経済的な価値を地域の維持発展に役立て、文化財の保存や新たな文化創生へと還元していく考え方を実践することが、重要視されてきている。文化財の保存・活用は、地域社会の持続的な発展へと繋がっていく大きな可能性を秘めている。文化財の保存と活用が地域社会の向上発展をもたらす、それが文化財への投資を生み、さらなる保存と活用の進展が期待されるようになってきた。

このような文化財の持つ力「文化力」によって地域社会を元気づけ、地域のまちづくりを進めていくこ

文化庁文化財鑑査官
山下信一郎
(やました しんいちろう)



文化財は心の中に宿る財産

とは大切である。しかし、文化財の魅力は社会的・経済的意味ばかりではない。もっと深奥にある文化財の魅力について、換言すれば、文化財保護の真骨頂はそもそも何かを、ここではいささか考えてみたい。

わが国では、有史以来の長い人々の営みのなかで、各地域において豊かな歴史と文化が発展し、その所産として有形・無形の様々な文化財が生まれ、現在に継承されてきた。文化財には美術工芸品や建造物といった有形文化財、芸能・工芸技術といった無形文化財、風俗慣習・年中行事・民俗芸能といった民俗文化財、遺跡・名勝地・動物植物といった記念物、棚田など文化的景観、そして歴史の町並みである伝統的建造物群の六類型が文化財保護法に定義されている。これまでに多数の文化財が重要文化財や国宝、史跡等に指定・選定・登録され保護を受けてきた。

しかし、その保存継承の道のりは決して平坦ではなかった。近代以降に言えば、明治維新という大変革のなか、古社寺の宝物類や建造物が消滅の危機に瀕し、破却されたり、国外に流出したりした。地震等



文化財防火デーの消火訓練
(令和5年1月。東京・聖徳記念絵画館)

の自然災害による文化財被害、戦災被害、戦後の高度経済成長に伴う開発と文化財保存問題、社会構造の変容による地域伝統文化の衰退等、幾多の困難に直面するなか、先人の並々ならぬ尽力により、多くの文化財が保存継承されてきたのである。

このように、先人たちが幾多の困難に関わらず文化財保護の取組を営々と進めてきた動機はなにか。それは、文化財が地域や国の歴史や文化を正しく理解する上で欠かせない存在だからであるし、現在の人々が暮らしていく中で、来し方行く末を考える際の手がかりとなつて、人々の心の糧・拠り所、誇りとなるものだからである。思い出してほしい。平成二十八年に熊本震災で熊本城跡が被災した際に、あるいは令和元年に沖縄・首里城跡の復元正殿等が焼失した際に、熊本や沖縄の方々が茫然自失、落涙した場面を。その心情を察するに、地域の代表的施設が突如不幸な事態により失われたことへのショックは当然のこと、その嘆きの奥底には、地域社会のシンボルとしてなくてはならない精神的なインフラが失われた喪失感があったのだと思う。

文化財はそれを生み・育んだ先人たちの営みの記憶であり、現代人にとり喜怒哀楽様々の場面において、心の支えとなつてきた。昭和時代を振り返れば、太平洋戦争後の静岡・登呂遺跡の発掘調査は新生日本に明るい話題を提供し、奈良・高松塚古墳壁画「飛鳥美人」の発見は古代へのロマンを、平成時代初めの佐賀・吉野ヶ里遺跡における大規模環壕集落の発見は今に続く考古学ブームを巻き起こしたことなど、文化財が人々の胸を躍らせ、血を沸かせたことは、昭和世代の者であれば良く記憶するところであろう。平成二十三年の東日本大震災では、岩手・名勝高田松原にわずか一本残った松が、「奇跡の一本松」と称され、震災復興のシンボルとなったことは、今も記憶に新しい。このように、文化財は様々な時代・局面において、人の心を虜にし、心の癒やしとなるものである。

問い続けていきたい文化財保護の意義

現在、文化財を取り巻く環境は変革期に入っている。過疎化や少子高齢化等により各地域の文化財を維持・継承する担い手が不足し、文化財消滅の危機が懸念さ

れ、「地域社会総がかり」で文化財の保存継承に立ち向かうことが喫緊の課題となつてきた。そのため、文化財の所有者、管理団体、行政、市民、関係団体等が文化財保護の担い手として相互に連携・支援する体制を確立していくことが大事である。域内に所在する文化財を総合的に把握したうえで、計画的に文化財保護行政を推進することが地方自治体には求められている。また、文化財の運営手法として官民連携事業（PFI、コンセッション）の導入や、文化財修理予算を確保するための指定寄付、CF（クラウドファンディング）の活用も推奨されている。文化財はひとつとび失われれば取り返しがつかない。文化財を社会のインフラとしてしっかりと保存し、維持管理したうえで、整備・活用をしていくことが、これからの地域社会の持続的な発展を進めていくうえで益々大切である。

今年一月二十六日には恒例の「文化財防火デー」を迎える。よく知られているように、文化財保護法が制定される契機の一つとなつた、昭和二十四年の奈良・法隆寺の金堂及び金堂壁画の焼損という蹉跌（さだつ）を決して忘れることなく、今後も文化財保護の意義を問い続けていきたい。

筆者略歴

一九六六年、東京都生まれ。一九八九年、東京大学文学部卒、同大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得満期退学。博士（文学）。専攻・日本古代史。奈良国立文化財研究所（現・独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所）に奉職、平城宮跡・藤原宮跡等の発掘調査、出土木簡の釈読整理に従事。文化庁文化財部記念物課（現・文化財第二課）に異動後は、文化財調査官（史跡部門）として全国の遺跡保護に当たる。主任文化財調査官、文化財第二課長を経て、二〇一三年四月より現職。日本歴史学会評議員。

明治天皇御椅子修復プロジェクト ——近代宮廷文化をめぐる保存修復と 国際連携の試み

生活様式の西洋化。様々な面で
ひたすら近代化をめざし歩んでいた
「明治」という時代の新たな語り部は
なにを語るのだろうか……。

明治の息吹を 伝える新たな資料

京都の尼門跡寺院・大聖寺門跡には、一脚の御椅子が伝わる(図1)。明治九年(一八七六)十一月か



図1 明治天皇御椅子(大聖寺蔵)

ら明治十年七月、明治天皇が京都御所に滞在していた時期の椅子であり、かつて霞会館京都支所(元華族会館京都分館)にて保管されていた。霞会館は華族・旧皇族家を中心とする社交文化機関であり、御椅子が同会館から大聖寺門跡に寄贈されたことは、

宮廷文化の遺品が尼門跡の文化圏に受け継がれた歴史的経緯としても注目される。

古来、宮中では畳と几帳を中心とする床座の生活様式が基本であったが、天皇の御座だけは特別に高座が設けられ、権威を象徴する座所として扱われてきた。こうした高座の伝統は宮廷儀礼の格式として長く受け継がれた。一方、明治五年の洋装採用以降、西洋文化の導入に伴って宮中の調度や生活様式は大きく変化し、椅子とテ-

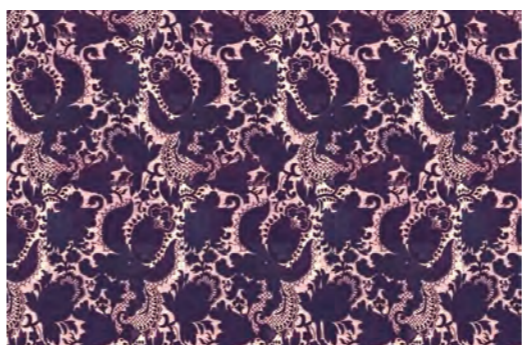


図2 座面裂地紋様、ヨーロッパ風植物文様のプロカテル織

ブルによる西洋式の作法が段階的に取り入れられた。従来の高座に代わり、近代国家としての威儀を示すものとして位置づけられた椅子は、儀礼や肖像写真においても重要な役割を担った。

明治天皇の御椅子(大聖寺蔵)は、新しい洋風意匠を採り入れた調度であり、日本が伝統と近代をどのように調和さ

せていったかを示す貴重な資料といえる。この御椅子は曲線を基調とする西洋家具様式を取り入れ、背部の頂には金箔の菊花紋章が据えられている。背と座面にはヨーロッパ風植物文様のプロカテル織が



図3 椅子用装飾縁紐



図4 明治天皇御椅子(側面)



図5 損傷部分、詰め物の露出

の専門性を持ち寄り、最適な修復方針を探る協働型の取り組みである。

天皇の御椅子は なにを語るか……。

明治天皇御椅子は、単なる家具ではなく、時代の転換期を映す象徴的な文化遺産である。そこには、近代化を進める明治政府が西洋文化を受容しつつ、従来の伝統や宮廷儀礼と如何に調和させていったかという歴史が刻まれている。近代宮廷文化を理解するうえで不可欠な資料であり、その保存と研究は日本近代文化史に多角的な視点をもたらす。本修復プロジェクトは、一脚の御椅子を蘇らせるのみならず、明治宮廷文化の再評価を促し、日本とヨーロッパの専門家・職人・研究者が交わる文化交流の場となることを願うものである。修復の過程では、文化財が語りかけるようにさまざまな事実が現れ、これまで見えていなかった歴史の一端が明らかになる。文化財修復によるそうした発見の積み重ねは千載一遇であり、調査研究を推し進める好機である。文化遺産の理解を深めながら未来へとつないでいく重要な節目である。

修復は国際協力のもとに

修復作業は、御料馬車や御椅子の修復実績をもつ株式会社ミネルバと協働して進める。まずは京都において裂地の分析や構造の把握を行い、その成果をもとに段階的な修復方針を策定する。春から夏にかけては、イタリアの専門家や京都の技術者らの協力を得て、織物調査と椅子の構造の調査を実施する予

定である。
絹糸・染料・媒染成分などの科学的分析を行い、材料特性を明らかにし、製作地や技法の推定も行う。また、日本および海外の織職人との意見交換を通じて裂地構造の理解を深め、裂地の復元の可能性も探る。科学的分析と職人技術を統合しながら、適切な修復アプローチを検討する点が本プロジェクトの特色である。
国際共同研究の柱として、イタリア・トリノの文化財保存修復財団、チェントロ・コンセルヴァツィオーネ・エ・レスタウロ「ラ・ヴェナリア・レアーレ」と協力する。同財団はトリノ近郊にあるユネスコ世界遺産ヴェナリア宮殿内に設置された官民連携の保存修復拠点であり、文化省・地方自治体・民間財団・トリノ大学などが参画して二〇〇五年に設立された。家具・織物・金属・絵画など多様な文化財を扱う保存修復研究所と科学研究所を備え、さらにトリノ大学と連携した教育機関を併設し、実際の文化財を対象とした教育・研究体制を整える。国際的ネットワークを通じて各国との共同研究を推進しており、今回の協働では宮廷家具修復の知見を共有し、明治期宮廷家具の特質に即した修復方針を検討

*プロカテル織：17世紀にフランスで生まれた緻密で美しい織物で、複雑な柄が特徴。

南葵音楽文庫を明日へ

研究、普及、保護の現在

今から百年前、音楽をこよなく愛した
紀州のお殿様が蒐集した貴重な音楽資料は
世界的な評価を受けている。
これをどう守り、伝えていくべきかを考える。

世界的な音楽資料群

紀州徳川家第十六代当主徳川頼貞（一八九二～一九五四）が、音楽振興に寄与するため、私財を投じ情熱を注いで蒐集した音楽資料群が残されている。



徳川頼貞（1892～1954） 和歌山県立博物館蔵

の年、二万点に及ぶ貴重な資料群を四十年にわたり所蔵してきた公益財団法人読売日本交響楽団は、和歌山県と寄託契約を締結、翌年には和歌山県立図書館で公開が始まり、同県の県立博物館で貴重手稿資料の企画展が開催された。

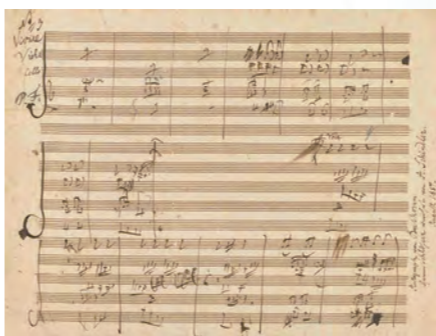
このコレクションは、ちょうど百年前（一九二五年十月）に徳川頼貞により設立された南葵音楽図書館の所蔵資料であり、戦後になって南葵音楽文庫と呼ばれるようになった。この資料群は、ベートーヴェンの自筆楽譜やバッハ生前に出版さ

Nanki Music Library という名により、日本にある音楽資料コレクションとして世界的に知られている。だが国内では、半世紀近くにわたり、その存在すら話題になることはなかった。わずかに二〇〇六年以後、当時の文部科学省科学技術振興調整費により慶應義塾大学が貴重資料の一部を高精細デジタル化したのが、研究者、関係者に知られたただけであった。

それが一変したのが十年前の二〇一六年。こ



和歌山県立図書館南葵音楽文庫閲覧室



ベートーヴェンの自筆楽譜（ロシア民謡編曲）

慶應義塾大学名誉教授
南葵音楽文庫研究員
美山良夫
(みやま・よしお)



たものであった。昭和初期には、「東洋随一の音楽専門図書館」を自負するまでになっている。

貴重な資料がたどる運命

世界の著名な資料コレクションには、所蔵品の価値とともに、それが辿った数奇な運命によっても語られる例がある。炎上、水没、秘匿、略奪、戦禍などなど。さしずめ南葵音楽文庫もその中に含まれよう。金融恐慌、華族銀行とよばれた第十五銀行の破綻などの影響をうけ図書館運営に窮すると、旧知の小泉信三が図書館長をつとめていた慶應義塾図書館に寄託、戦時下も公開の灯は消えなかったものの、人々の記憶から消えていった。その図書館も東京大空襲で被災、音楽コレクションの保管部分は辛うじて残り、急ぎ疎開のため搬出された。戦後は行方知れずとなり、コレクション承継者が米国で売却しようと試みたとも伝えられたが真偽は不詳のまま。一部は流出し、古書店の棚に並んだ。一九六七年春、東京と大阪で突如「特別公開南葵音楽文庫」展が読売新聞社主催で開催された。福島県の呉服店の蔵で、コレクションは多数の茶箱に入った状態で保管されていた。

東京に運ばれた資料群は、あらたに設立され開館準備中であった日本近代文学館（駒場）に間借し、そこで留学から帰国したばかりの音楽学者を軸に、調査と整理が進められた。南葵音楽文庫再発見は世界の注目するところとなり、海外の関係者の来訪が相次いだ。大学生であった筆者も駒場へ足を運び、資料の真価には疎かったものの、整理現場の熱気に強い印象を受けたのを思い出す。

日本近代文学館時代には、新たに音楽資料の追加蒐集もおこなわれた。音楽図書館を核に、巨大な音楽ホールと国際的なホテルを一体化した文化センターの構想が進められた。ところが十年を経た一九七七年、この構想は立ち消えとなり、文庫は駒場を退去、四十年にわたる非公開の歴史が始まった。

資料の今

現在、稀代のコレクションは、その全てが和歌山県に寄託されている。約百点の手稿資料は県立博物館が収蔵、他は県立図書館が管理し、南葵音楽文庫閲覧室を整備、専門家の協力のもと三つの事業を実施している。軸になるのは調査研究で、その成果は毎年「南葵音楽文庫紀要」に掲載される。また来館者、国内外からの問い合わせに対応する閲覧支援、さまざまなレクチャー等による教育普及事業も並行してすすめている。加えて、館内のホールで催される室内楽音楽会のうち毎年一回を南葵音楽文庫コンサートとしている。公開当初は短いレクチャーを毎週開催、それに呼応し和歌山の音楽家、音楽愛好家、歴史ファンらが結びついたサポーターが生まれ、有志による自主的な活動として読書会、見学会、演奏会等を開催するようになった。昨年になって、音楽家が軸になった南葵音楽文庫普及会が発足、関西各地での催しに加え、東京で南葵



南葵音楽図書館百年コンサートから（2025年、旧東京音楽学校奏楽堂）
澤和樹（Vn.）、林裕（Vc.）、宮下直子（Pf.）

音楽図書館百年を記念するコンサートを実現した。縁の深い曲目に加え、徳川頼貞が寄贈したパイプオルガンが残る旧東京音楽学校奏楽堂で開催されたこともあり、各界の注目を集めた。普及会の活動には、調査研究等に協力している専門家、また上記のサポーターも参加している。



サポーター有志が企画・主催した和歌山の若い人による南葵音楽文庫ミニコンサート（2022年）のカーテンコール

未来へ伝える大切な資料として

こうした活動とともに、資料保護のための事業も進められている。貴重な手稿、他に存在が知られていない、あるいは稀覯な版本を数多く含む、また戦前の音楽演奏に供された楽譜等も含むコレクションであり、一五〇〇年頃から一九〇〇年代前半にいたる広範な時代に、わずかな紙葉から分厚く重みのあるものまで、また判型、造本、装幀の手法や材質も多彩な資料群には、損傷が激しいものも少なからず含まれている。所蔵する読売日本交響楽団は、十年前から貴重資料の修復にのりだし、作業を西洋古典籍の修復にかけてはわが国きわめて限られた専門家に依頼、現在も営々と継続している。

寄託を受けた和歌山県、その委託により研究にあたる専門家、そして県民を中心とした民間のサポーター、音楽家、所有する交響楽団が、それぞれの立場から、かつては知られることが少なかった南葵音楽文庫に親しみ、歴史と音楽を学び、演奏し、また修復に携わっている。この稀代の音楽コレクションを今日にひらき、明日につなげるために。

ルイ・ロットの響きに魅せられて ——伝説のフルートと私

聴くものを虜にする音色のフルートは、
奏者に高度な技術を要求する。
そんな楽器のひとつ、「ルイ・ロット」とは……。

聖徳大学
音楽学部教授
北川 森央
(きたがわ・もりむ)

神秘的な魅力を秘めた名楽器

フルートの魅力はなんと言ってもあの「音」でしようか。モーツァルトの「魔笛」のように、心を込めた一吹きは人の魂に届き、揺さぶるものがあると思います。現在、世界には多くのフルートメーカーがあり、新品のよいフルートを比較的簡単に手にいれるこ



著者近影、チャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院大ホールにて。

とができますが、ワインテージと呼ばれる昔のフルートを愛用する奏者もいます。その中にヴァイオリンの銘器になぞらえて「フルートのストラディバリウス」とまで呼ばれる楽器があります。フランスのバリ、名工ルイ・エスプリ・ロット Louis Esprit Lot (一八〇七―一九〇六) によって十九世紀中頃に始められた工房で製作されたフルートで、ロットの引退後は代々の職人頭がルイ・ロットのブランドを二十世紀中頃まで繋いでいきました。すでに工房は閉じられ、残された楽器は修理しながら使い続けるしかありません。

十九世紀から二十世紀というのはまさにフランスのフルート黄金時代、多くの印象派の作曲家たちがフルートの響きに託して名曲の数々を生み出し、名人たちが奏する傍には、必ずルイ・ロットのフルートがありました。名奏者、名教師として知られるアンドレ・ジョネ(一九一―一九八八)がその回想で、自身の住むスイスの新聞広告に「求むルイ・ロットのフルート、パリのヴィヴァート付き」と載せられていたのが忘れられない、と語っています。

他のメーカーにはない独特の複雑で温かな音色。近い距離での手応えではなく、より遠くのほうで丸く響

なってしまいます。苦勞しても、この音に託したいと思うからです。同じルイ・ロットを吹く仲間同士でよくその苦勞話を分かち合ったりするのですが、その中には私の奏者としての経験に決定的な影響を与えてくださった、元新日本フィル首席の名手、白尾彰さんもおられます。

謎の解明

このルイ・ロットの魅力に、多くのフルートメーカーが迫ろうとしました。当時の銀の組成に秘密があるのではないかと、と分析を試みた製作者もいますが、それだと、同じ素材を使う当時の他のメーカーがこの響きにはならないことの説明ができません。さまざまな「秘密」が想定されるなかで、一枚の銀の板を叩いて擦って巻いていく「巻き管」の技術にこそ真髄があるのではないかと考えたのが、私もお世話になっている日本の職人、秋山好輝さんです。巻く過程のなかで管にさまざまな不均質、ランダムな要素が生じます。面白いのが、銀のルイ・ロットと「木」、木管のルイ・ロット



ルイ・ロット初代1867年製、歌口は小さいが大変美しい。



ルイ・ロット初代(木管)1871年製、この楽器も木製として異例なほどに軽量、楕円形の歌口は大変小さく息の抵抗が強い。



ルイ・ロット初代(総銀)1867年製、キーカップや全体の造形すべてがコンパクトで軽く、且つ剛性の高い作りになっている。バランスの取れた美しさ。

あこがれのフルートを手にして……

トはなんだか音が似ているのです。木にはランダムな木目がありますが、均質な材質より、不均質な材質から生じる音のほうが面白くて魅力ある音を生む。フランスのルイ・ロットに対してドイツの伝説のフルート、ヘルムート・ハンミツヒにも同じような技法があると聞いて、多めに納得しました。

私が最初に手にしたルイ・ロットは東京都交響楽団の初代首席、湯川和雄さんが所有しておられた一八八六年製(明治十九年)、三代Debonnebeau de Couëtier 製作の楽器。湯川先生には藝大時代から度々オーケストラでも一緒に練習させて頂いて、彼の都響最後の演奏会(朝比奈隆指揮のブルックナー交響曲第五番)ではその二番フルートを吹かせて頂くなど、よくしていただきました。人のパーソナリティと楽器の個性というものがあるといふことを教えて頂き、それまで楽器に無頓着だった私に新しい世界を教えてくださいました。先生のルイ・ロットがあまりに素晴らし

く「遠鳴り」に魅せられて、すでに良い状態のものは数少ないルイ・ロットを探し、腕の良い職人さんに調整や修理をお願いするまでは楽器の問題。その次の問題は奏者です。現代の楽器ではすぐにできてしまうことが、この楽器ではできないのです。吹くのが難しい……。いい楽器だと多くの人が感じる一方で、これを実際に現場で使うプロの奏者が少ないのも、楽器を信頼し自由にコントロールできるようにするまでにかなり苦勞を重ねなければならぬ、という理由が大きいと思います。歌口の穴が小さく、息の抵抗が強いのでしっかりと呼吸で支えて吹かないといけない、且つ軽い楽器なのでわずかでも吹きすぎると音が壊れてしまう、遅く繊細に吹かなければならないという相反。吹きこたえ、手応えが乏しいので思わず力んでしまうのをどうリラックスするか。当時のバリの基準ピッチが現代より少し低いので、数ヘルツ分ですが高く吹き、全体の音程のバランスを保つという現代になって付け加えられた苦勞もあります。

まさに修行。よほど好きでなければ人には勧めません。ただひとつ、このルイ・ロットを操る術と快感を知ってしまうと、なかなか他の楽器に手が伸びなく

く、そんなに気に入ったなら、と譲って頂くことになりました。夢の楽器が手元にきたのはいいのですが、まあ、鳴らない……。なんとかコントロールできるようなものになるのに五年くらいかかりました。その間、鳴らない楽器で四苦八苦している私、先生方にはさぞご心配をおかけした、と今になって思います。

私が現在使用しているのは、ルイ・ロット本人(初代)が製作した、一八六七年製(慶応三年、大政奉還の年!)総銀製のものと、一八七一年製(明治四年、普仏戦争とパリコミューンの年!)一体、この楽器がどんな激動のバリを眺めたのか……)木管の二本です。初代の銀は、その来歴を調べると歴史に残る名奏者が一時期手にしていたと思われるもので、私の前の持ち主の方は、この楽器を手放すからには相手の人間性を見て決めたい、とおっしゃる。緊張しながらお住まいの地方まで訪ねた目を思い出します。私は一吹きで「これだ!」という直感。想いを一生懸命伝えて譲っていただきました。オーケストラでは木管を吹くのはどうか、と私に示唆してくれたのは大親友の指揮者、山田和樹です。そっと吹けばホール中の空気が一緒に震えるような体験をさせてくれる素晴らしい楽器で、これも私の敬愛するオーケストラ奏者の先輩から譲っていただいたものです。人の想いを受け継いでゆく、というのも楽器と音楽家の使命だと思っています。

筆者略歴

玉川学園小学部にて豊かな音楽教育を受け、十一歳よりフルートを始める。東京藝術大学附属音楽高校、東京藝術大学卒業。同大学院修士課程及び博士後期課程修了。博士(音楽)を取得。東京藝術大学教育研究助手、新日本フィルハーモニー交響楽団契約団員等を経て、現在、聖徳大学音楽学部教授、東京藝術大学大学院および上智大学神学部講師。横浜シンフォニーエッタフルート奏者。

第18回

日中韓文化交流フォーラム報告

アニメーションは今や世界の人々が共有する新しい文化と言えよう。アニメーション先進国を競う三カ国が和歌山の地で語りあったのは……。

財団専務理事 **小宮 浩**
(こみや・ひろし)



和歌山城



和歌山児童合唱団の皆さん。指揮は沼丸晴彦先生(左)とピアノ伴奏は大浦圭子先生(右)

道をへだててホテルの前は虎伏山。その頂上にそびえ立つのは紀州五十五万五千石のシンボルである和歌山城。このお城は昭和三十三年(一九五八)に再建された鉄筋コンクリート製ですが、天守閣の堂々たる姿は往時を偲ばせるには十分なものがあります。

十月二十二日の夕刻、恒例の歓迎宴を開催。和歌山児童合唱団の歓迎の歌で宴は始まりました。

宮崎駿監督の名作アニメーション作品「となりのトトロ」から「さんぽ」を、そして今やフォーラムのテーマソングとも言える「わたしは未来」を、最後に東日本大震災の被災者の方を励ますために作られた「ほらね」を美しい声と見事なハーモニーで合唱団の皆さんは披露してくださいました。



大塚康司 和歌山市副市長 宮崎泉 和歌山県知事

この日、お客さまとして和歌山県知事の宮崎泉氏、和歌山市副市長の大塚康司氏をお招きし、それぞれ御挨拶をいただきました。

紀州五十五万五千石の城下町で

昨年十月二十二日から二十五日までの日程で「第18回日中韓文化交流フォーラム」を和歌山市で開催いたしました。二〇一九年の東京開催以来、久しぶりの日本でのフォーラムです。

今回は「映像(アニメーション)による文化交流」というテーマで語り合い、論じました。

フォーラムの会場も代表団の宿舎もダイワロイネットホテル和歌山のお世話になりました。



鄭求宗氏 袁敏道氏 澤和樹氏



李康民氏(韓国) 韓中友好協会会長 門司健次郎氏 辛正承氏(韓国) (日本)

な賞を受賞されています。また、教育者の立場から、アニメーションは異文化とのコミュニケーションをとるには最適な手段なのだから、相手に敬意を払い、共感を得られる作品作りを考えると、学生には説いている旨の話をされました。そして、AIはツール。最後に決めるのは人間なのだ、と話されました。

韓国芸術総合学校教授の李延政先生は「韓国アニメーションのドラマチックな軌跡と日中韓協力の未来」と題して講演。先生の御専門はコンピューターアニメーション。アニメーションの世界ではアメリカ、日本が先進国で、これに韓国が加わり、各国の協力のもと、さらなる発展をめざすべきだと思つと話されました。さらに韓国では世界中のスタイルを取り入れようとする融合のDNAが動いていまして、話されたあと、しかし、どの国でもそれぞれ国情にあった発展をとげて



懇親会の席で。澤理事長の右は中国の張孝萍氏(中日友好協会副秘書長)

取り入れようとする融合のDNAが動いていまして、話されたあと、しかし、どの国でもそれぞれ国情にあった発展をとげて

した。久しぶりの日本でのフォーラム。中国、韓国の代表団の先生方は和歌山の味覚と地酒を楽しまれた様子でした。

フォーラムの序奏

十月二十三日、前日の雨模様とは打って変わって天気は快晴。まだ、ここ和歌山市には本格的な秋までには時間を要するようです。午前九時よりフォーラム開始。司会、進行は筆者がとめました。今回のフォーラムの委員は日本側は、委員長は当財団の澤和樹理事長、以下、元・カナダ大使、ユネスコ大使の門司健次郎評議員。専門家として東京藝術大学大学院映像研究科の岡本美津子教授、そして筆者、また事務局として小林克夫事務局長、倉持智子経理課長、参与の丸山純一氏、仙波志郎氏に加わっていただきました。

中国側は中国人民対外友好協会副会長の袁敏道氏を委員長に以下五名、韓国側は韓日文化交流会議委員長の鄭求宗氏を委員長に以下六名といった委員構成でした。



2025年10月23日。出席者全員集合。前列中央、澤和樹氏、その左、袁敏道氏、右が鄭求宗氏

顔なじみの先生方も多く、また専門家の先生方も学界交流などで、こちらも顔なじみばかりとあって、和やかな雰囲気の中でフォーラムは開始されました。前日夜遅く和歌山入りした袁敏道氏は



壇上加藍の御影堂前にて演奏を終えて……

れた和歌山城が会場のムードを盛り上げるのに一役買ってくれたような気がいたしました。加うるに恵美子夫人のピアノ伴奏で澤理事長が演奏されたジュエル・マスネの「タイスの瞑想曲」とエドワード・エルガーの「愛の挨拶」は、フォーラムに参加された方々の疲れをいやすには、十分なものがあつたように思えます。

十月二十五日、ホテル隣の和歌山城ホールの小ホールで邦楽と洋楽のコラボレーションとなる「紀尾井 午後の音楽会」が開かれ、中韓の先生方にお聴きいただきました。

このコンサートでは箏の菊重絃生氏と澤理事長のヴァイオリンで宮城道雄の名曲「春の海」が演奏され、そのバックに東京藝術大学の山村浩二教授が制作した「春の海」のアニメーションが映し出され、今回のフォーラムのフィナーレとしてはよい演出だったかな、と思われました。コンサートの終了後、外は少し小雨模様となりました。中韓の代表団の帰国のフライトがほぼ同時刻だったので、筆者と小林事務局長とで先生方を関西国際空港までお見送りした次第です。

最後になりましたが、今回のフォーラムに際し、物心両面で多くの御協力を賜りました法人ならび関係各位に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。写真：仙波志郎

高野山へ

最後に今後のフォーラムのあり方について話し合いました。結論を言えば、この事業を続ける大変さはよく理解できる。しかし続けていくう、となったのでした。

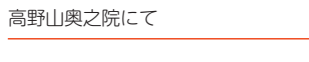
十月二十四日、朝八時にバスでホテルを出発。二〇〇四年に「紀伊山地の霊場と参詣道」の構成資産として世界遺産に登録された高野山へ。周知の通り、ここは弘法大師・空海(七七四〜八三五)によって開かれた御山です。

二時間ほどの行程でバスは高野山着。高野山大学密教文化研究所の木下浩良先生が待つていてくださいました。先生の案内で、まず奥之院へ。標高八〇〇メートルの高さにあるこの地は、



不動明王像の前で護摩供を行う池口恵観住職

夜、お別れの会をホテル近くのレストランで開きました。ライトアップさ



高野山奥之院にて

令和七年度助成事業の採択状況について
令和七年度助成事業の申請、採択状況について次のおり報告します。

■文化財保存修復助成事業
二十九府県の教育委員会等から推薦があり、審査の上、次のとおり助成を決定しました。

	申請数	採択数	決定金額
美術工芸	十九	九	三百九十六万三千元
建造物	二十九	十五	七百七十六万四千元
有形民俗	七	六	二百一十八万八千元
計	五十五	三十	一千三百七十四万五千円



修復された「宝持院山門」(岩手県一関市)

■芸術研究等助成事業

研究者からの申請に基づき、審査の上、次のとおり助成を決定しました。

申請数	採択数	決定金額
四十一	十九	一千二百七十七万七千円

東京藝術大学 楠田健太
「劇付随音楽『アルルの女』」



©東京藝術大学演奏藝術センター (撮影：横田敦史)



©東京藝術大学演奏藝術センター (撮影：横田敦史)

■国際協力事業

研究者からの申請に基づき、審査の上、次のとおり助成を決定しました。

申請数	採択数	決定金額
七	四	三百五十万円

■重点助成事業

(1) 昭憲皇太后大礼服研究修復元支援事業
大聖寺門跡所蔵の昭憲皇太后大礼服は、貴重な歴史資料であり近代日本の象徴的遺産として文化的価値が高い。経年劣化著しい大礼服の修復、欠失している部分(スカート)の復元のため、令和元年度から令和七年度まで募金を行い昭憲皇太后大礼服の研究・修復・復元事業を実施しています。



日本語版 英語版

令和七年度は七年計画の七年目であり、昭憲皇太后大礼服研究修復元プロジェクト

ジェクトのまとめの本『皇后がまとう明治の美―大礼服修復の歩み』の日本語版及び英語版を出版しました。

(2) 平安神宮百三十年社殿等保存修復事業

平安神宮は平安京の祖神桓武天皇を奉祀する神宮として明治二十三年に創建され、令和七年三月十五日には御鎮座百三十年の式年を迎えました。

平安神宮百三十年祭として、平成二十二年に国の重要文化財に指定された大極殿をはじめとする建造物を完全な形で後世に引き継ぐべく塗替え工事を行い、更に令和二年に路面電車では日本でも初めて重要文化財に指定された車両、通称チンチン電車の維持保存を目的とする記念事業を行っており、令和七年度から令和十二年度まで六年間に渡り社殿等保存修復事業を実施します。

令和七年度は、六年計画の一年目であり、「大極殿耐震及び修復工事」並びに「重文電気鉄道電車保存修理」を行いました。

○ 昭憲皇太后大礼服研究修復元支援事業 に対する寄付

○ 平安神宮百三十年社殿等保存修復事業 に対する寄付

○ 平安神宮崇敬会

○ 文化財サポーターズ(被災文化財復興支援事業) に対する寄付

お願い

(1) 平安神宮百三十年社殿等保存修復事業のための募金のお願ひ
財団の重点助成事業として実施している「平安神宮百三十年社殿等保存修復事業」は、令和七年度から令和十二年度まで募金を行っております。

賛助会員ご入会とご寄付を頂きました皆様

◎令和7年10月1日から12月31日まで 敬称略/順不同

- ☆賛助会員
- 個人(正)会員
- ☆寄付金
- 文化財保存修復・芸術研究等助成事業に対する寄付
- ヤフーネット募金(204名様)
- (株)ティアンドケイ・ミュージック
- (宗)須佐神社
- 立護山満願寺

お願い

募金のお振込み手続きは左記の銀行振込又は郵便振替によりお願い申し上げます。

※郵便振替の場合、通信欄に「平安神宮」とお書き下さい。

銀行振込(①銀行名②口座番号③名義)

- ①三井住友銀行 上野支店
- ②普通 6615500
- ③(公財)文化財保護・芸術研究助成財団

※銀行振込の場合、振込者の確認が難しいため、領収書、お礼状の発行等の必要上、財団事務局に事前にご連絡をいただけると幸いです。

(電話：〇三・五六八五・二二二一)
郵便振替(①振替番号②加入者名)

①00160・5・12319

②(公財)文化財保護・芸術研究助成財団
◎賛助会員ご入会並びにご寄付(前記のご寄付を除く)のお願い
〈賛助会員〉

当財団では、財団の活動趣旨にご理解、ご賛同いただき、恒常的にご支援いただける法人、個人の賛助会員を募集しています。

法人正会員 年額(1口) 50万円
個人正会員 年額(1口) 1万円
維持会員 年額(1口) 10万円

〈ご寄付〉
賛助会員の他に、ご寄付も随時受け付けております。ご寄付の方法は様々な方法がありますので、左記のとおりご紹介いたします。詳細は当財団事務局までお問い合わせ下さい。(電話：〇三・五六八五・二二二一)

(1) 銀行振込又は郵便振替

銀行振込や郵便振替でもご寄付を受け付けております。

- 三井住友銀行 上野支店
普通 6615500
- みずほ銀行 上野支店
普通 4478576
- 三菱UFJ銀行 上野中央支店
普通 0796384

(郵便振替)

〇〇160・5・12319
※口座名義は、銀行、郵便局、いずれも(公財)文化財保護・芸術研究助成財団
※銀行振込の場合、振込者の確認が難しいため、財団事務局に事前にご連絡をいただけると幸いです。

(2) インターネットによるご寄付

次の手順によりインターネットから、ク

レジットカード又はVポイントによるご寄付(募金)を受け付けています。

- ←「YAHOO! JAPAN ネット募金」
- ←「文化・スポーツ」
- ←「文化財保存修復支援募金」
- ←「クレジットカード」又は「Vポイント」を選択
- ←募金

(3) 遺贈
「遺贈」によるご寄付・相続財産のご寄付を承っております。

「遺贈」とは、遺言により、ご自分の財産を特定の人や団体に分け与えることをいいます。受取人として、法定相続ではなく遺言書により、一部又はすべての財産の受取人として、公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団をご指定いただくことができます。

財団に寄付をされた場合、相続税の控除を受けることができます。

遺贈寄付相談窓口のお知らせ

当財団はREADYFOR株式会社と連携し、遺贈によるご寄付や相続財産のご寄付に関するご相談を承っております。

※レディーフォー遺贈寄付サポート窓口
(<https://izoready.jp/>)は、遺贈に関するご相談を受ける窓口で、何度でも無料にご相談できます。

〈お電話でのご相談・資料請求〉
レディーフォー遺贈寄付サポート窓口
0120・948・313 (通話料無料)

(4) 商品券・図書券等による寄付

ご家庭のタンスや事務室の机の中等で眠っている、未使用の商品券、図書券、切手、収入印紙、ビール券、お米券、旅行券、QOカード、テレホンカード、書き損じ葉書等もご寄付として受け入れております。お送りいただく場合は、当財団事務局宛てに封書にてご郵送下さい。

お知らせ

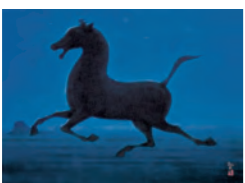
令和八年度助成金の申請に関するお知らせ

令和八年度助成事業にかかる助成金申請について、左記のとおり受け付けを行っております。詳細は、当財団ホームページ(助成金のご案内欄)でご確認下さい。

例年実施の文化財保護・芸術研究に係る助成事業 (申請期間)
令和八年一月十日(二)月末日(必着)

今号の表紙

平山郁夫 西域の馬 一九七八年



平山画伯は本年の干支である午年。本作品は一九六九年に中国の甘肅省にある雷祖廟の甘肅漢墓から出土した「馬踏飛燕」と命名された馬の銅像に触発されて描いたものである。後足で空を飛ぶ燕をも踏みつけて走る馬。これこそ前漢の武帝が求めていた一日に千里を走り、血の汗を流すと伝えられていた汗血馬であった。

編集後記

古代において優れた能力をもつ馬を所有することは軍事力の強化を意味した。汗血馬のふるさは西域である。本作品は平山シルクロード・ロマンを代表する一作である。

大国のエゴが世界中で跋扈し、第二次世界大戦後に築かれた平和のための秩序が崩壊しつつあるような気がします。武力を用いての現状の変更が悲惨な結末を生んでいます。核兵器に代表される武力の衝突によって、人類がほろびるなどといった愚で、悲しく、滑稽なドラマを創り出してはいけません。ハードパワーである武力に対抗できるのはソフトパワーである文化・芸術のもつ力でしょう。愛と癒しの心をもって人々をつんでくれるこの力を大事にしたいものです。すべての分野で本年も樂觀を許されるものは見あたりませんが、当財団を取りまく環境も全く同様です。

しかし、なにごとにおいても前向きな姿勢で本年も事務局一同、業務に取り組んでまいります。

最後になりましたが、皆さまにおかれましては幸多き年であることを御祈念いたします。

広報誌「絲綢之路」(シルクロード)
二〇二六年 新春号 通巻第一一〇号

★令和八年一月二十六日発行
★編集発行/公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団 事務局◎
〒110-0007 東京都台東区上野公園十二-1-50
電話(〇三)五六八五-1111
FAX(〇三)五六八五-1115
URL:<https://www.bunkazai.or.jp/>
E-mail:jimukyoku@bunkazai.or.jp
★印刷 エイ・エス・アドバンス株式会社